



2026 年 6 月 22 日

## エルニーニョ現象がブラジル・メキシコに与える影響

～インフレ上振れと成長リスクの検証～

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部上席研究員 森川 央

### 1. エルニーニョが発生、強いエルニーニョになる可能性も

日本の気象庁は2026年6月10日の監視速報で「2026年春からエルニーニョ現象が発生しているとみられる」と公表した。NOAA（米国海洋大気庁）も、2026年12月～2027年2月にエルニーニョ基準（+0.5℃以上）を満たす確率が96%あり、さらに強エルニーニョ級（+2.0℃以上）になる確率が31%と発表している。2026年後半から2027年にかけて、強いエルニーニョが発生する可能性が高まっている。

これをうけて、ブラジルでも警戒が高まっている。アマゾナス州政府は180日間の「予防的非常事態」を宣言した<sup>1</sup>。

エルニーニョが発生すると、ブラジルは北部と南部で対称的な影響を受ける。緯度の低い北部では干ばつが発生し、河川の水位低下、森林火災の多発を招く。逆に南部では、極端な降雨による洪水、河川の氾濫を招く。その結果、全国的に農業生産高の低下をもたらすだけでなく、物流の停滞、水力発電能力の低下を招く恐れがある。過去のエルニーニョでは、水力発電の低下を補うために火力発電への依存が高まり、燃料費の増加から電気価格の上昇、ひいてはインフレ率押し上げの一因になったこともあった。

### 2. 過去のエルニーニョのブラジルに対する影響

近年では2023/24年にエルニーニョが発生し、2015/16年には強いエルニーニョが発生した。国際的に最も利用されている指標（エルニーニョ 3.4 SST 偏差<sup>2</sup>）をみると、2015年10月～16年3月までの平均は+2.2℃、2023年10月～24年3月は平均+1.4℃と海面温度が高くなっていた（図1）。

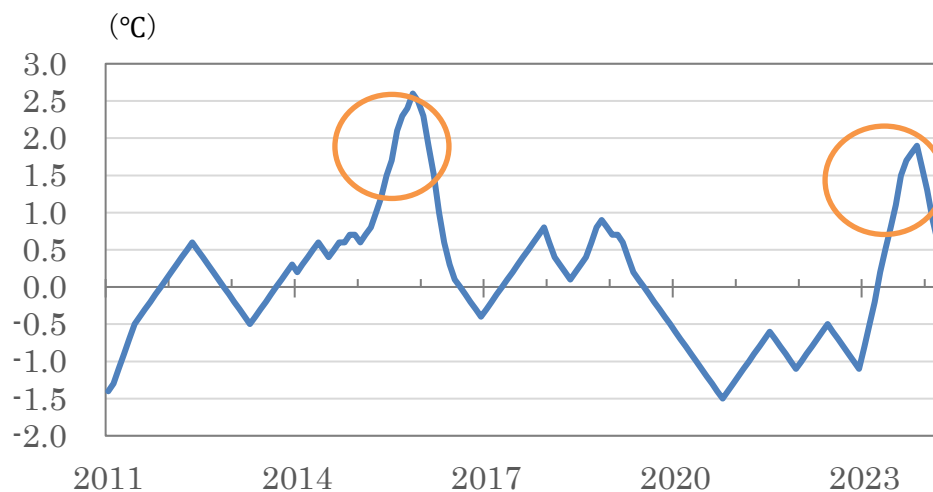
一方、ブラジルの実質GDP成長率は、2015年-3.5%、2016年-3.3%と不振を極めた。

<sup>1</sup> 2026年6月11日ブラジル日報「アマゾナス州が予防的非常事態宣言＝新エルニーニョ発生確率8割超＝農業・電力・物流に複合打撃懸念」

<sup>2</sup> ペルー沖赤道付近の海域の海面温度の平年からの偏差を示したもの。エルニーニョは温度が0.5℃以上高くなった状態と定義されている。

この理由は複合的で、金融引き締め、国際商品市況の悪化、政治の混乱、国営石油企業を舞台とした汚職の発覚による企業活動の低迷など、悪材料が重なった結果である。しかし、「過去 50 年で最強のエルニーニョ」<sup>3</sup>も成長率の押し下げ要因になったことは間違いなく、第 1 次産業の成長への寄与度は、2016 年 1-3 月 -0.7 ポイントとなり、その後 1 年を通じてマイナス寄与となっていた。

図 1 エルニーニョ 3.4SST 偏差



(資料) NOAA

図 2 ブラジルの実質 GDP 成長率



(資料) ブラジル地理統計院

IMF は、2015-16 年の平均成長率 (-3.3%) のうち、-0.5%~-1.0%の低下分がエルニーニョによるものだったと推計していた<sup>4</sup>。

最も新しいエルニーニョは、2023 年から 2024 年にかけてである。23/24 年のエルニーニョは中程度から強めで、15/16 年よりは弱かった。そのため、GDP への影響も 15/16 年

<sup>3</sup> <https://www.thetimes.com/travel/destinations/north-america-travel/us-travel/california/godzilla-el-nino-is-strongest-in-50-years-2nr02222dh3>

<sup>4</sup> Cashin, Mohaddes, Raissi (2015) “Fair Weather or Foul? The Macroeconomic Effects of El Niño” IMF Working Paper (No.15/89)

時の半分程度であったと推計されている。しかも 23/24 年の景気は比較的好調であったので、エルニーニョの影響を受けても、両年の平均成長率は+3.3%と高かった。マクロ的にはマイナスの影響を吸収できたのである。

表 1 近年のエルニーニョの概要とブラジルへの影響

	2015-16年	2023-24年
エルニーニョの強度	1950年以降で最強クラス	中程度～強め
GDPへの影響（IMF推計）	▲0.5～▲1%	▲0.2～▲0.6%
特徴	干ばつ・水危機＋景気後退と重複	洪水＋干ばつの地域分断
実質GDP成長率(平均)	-3.4%	3.3%
景気全体への影響	深刻（リセッションと重なる）	限定的（景気は比較的安定）

（資料）国際通貨研究所作成

次にインフレへの影響を検討してみる。2024 年の消費者物価上昇率は+4.8%で、中央銀行のインフレ目標を上回っていた。食品・飲料の上昇率は+7.6%で、消費者物価全体を 1.6%ポイント押し上げていた。IMF は 2024 年のインフレ加速の要因として「干ばつによる食料価格上昇」を挙げている<sup>5</sup>。

さらに間接的な影響として、電力価格の上昇が挙げられる。水力発電への依存度が高いブラジルでは、干ばつによる水位の低下が水力発電量の低下を招き、火力依存を高めてしまう。緊急の燃料調達は発電コストの上昇を招くため、電気料金の上昇につながってしまうのである。

この効果によりエルニーニョは消費者物価を約 0.3%ポイント押し上げたと思われ、直接・間接の効果を合計すると 2%ほど押し上げたと考えられる、

2024/25 年エルニーニョの景気への影響はわずかだったが、インフレへの影響は無視できない規模であった。

### 3. 2026/27 年への影響は楽観を許さない

ブラジル経済は 2024 年後半から減速していたが、最近の（2025 年 10-12 月と 2026 年 1-3 月）の成長率（前年比）は 2 四半期連続で+1.8%となっており、下げ止まりが確認された。3 月からは米国とイスラエルによるイラン攻撃のため原油価格が高騰しているが、ブラジルは原油の純輸出国で原油価格上昇はブラジル経済に追い風となる。また発電に占める

<sup>5</sup> <https://www.elibrary.imf.org/view/journals/002/2025/194/article-A001-en.xml>

再エネ（水力を含む）の割合も約 8 割高いので、ブラジルは原油価格高騰に対しては耐性が強い経済といえる。よって、ブラジル経済は今後緩やかな回復過程に入っていくというのが標準的な見方である。

しかし回復に向かうとはいえ、2026 年、2027 年の成長率予測の平均値<sup>6</sup>は、それぞれ（6 月 5 日）1.9%、1.7%に過ぎない。強いエルニーニョが発生すると、成長率は 1%近辺まで低下する可能性が高い。

さらに物価への影響も懸念材料である。5 月、ブラジルの消費者物価上昇率は、前年比 +4.7%となり、中央銀行の目標値の上限（+4.5%）を突破した。物価を押し上げたのは、飲食料品と住居の項目である。背景として、輸送費の高騰と肥料コストの増加が指摘されている。住居項目では電力価格の引き上げが押し上げ要因となっていた。また、飲食料品を除いた品目別物価では、前月より上昇した項目が 4 月の 64.1%から 67.9%へと上昇していた。物価上昇が食品に留まらず、サービスや工業製品といった他部門にも波及し始めていることを示している。

すでにインフレ率の再加速が始まっているところへエルニーニョの影響が追加されることになると、物価への影響は大きな懸念材料となる。

10 月には大統領選挙と国会議員選挙が予定されている。インフレが高まり景気後退観測が強まることになれば、現職への逆風となる可能性がある。現在、ルラ大統領は苦戦が伝えられている<sup>7</sup>。

#### 4. メキシコへの影響～インフレ加速と水不足の深刻化の懸念

工業化が進み、農業のシェアが低下しているメキシコでは、ブラジルに比べ景気への影響は小さい。IMF による国際的な分析<sup>8</sup>によると、米国との強い経済結合があり、農業依存度が低い（GDP に占める第 1 次産業のシェアは約 6%）メキシコは先進国型の経済であり、エルニーニョの影響を受けにくいとされている。2015/16 年の強いエルニーニョの影響についても最大で -0.3%であったと推計しており、2023/24 年の際は明確なマイナス影響はなかったとしている。

しかし、物価への影響は逃れられないとしている。メキシコでは、エルニーニョは夏の降雨量を減少させ、干ばつや高温被害をもたらすからである。その結果、農業生産高が落ち、食品価格の高騰を招くのである。

例えば 2024 年の消費者物価を振り返ると、野菜・果物の上昇率は最大で +23.5%（前年比）になっていた。個別品目ではトマトやタマネギが 2 倍に高騰していたのである。

IMF によると、エルニーニョが消費者物価に与える影響は、通常程度のエルニーニョで +0.5%～+1.0%、強いエルニーニョの場合は +1%を上回るとされている。

2026 年 5 月のメキシコの消費者物価上昇率は前年比 +3.9%と、前月（4 月）の同 +4.5%から低下した。しかしメキシコのインフレ目標の上限は +4.0%で、目標範囲内にかろうじて収まっただけである。民間予測機関による 2026 年のインフレ予想値の平均は、5 月時点で

<sup>6</sup> ブラジル中央銀行が集計している民間予測の平均。原データは以下のサイトで入手できる。

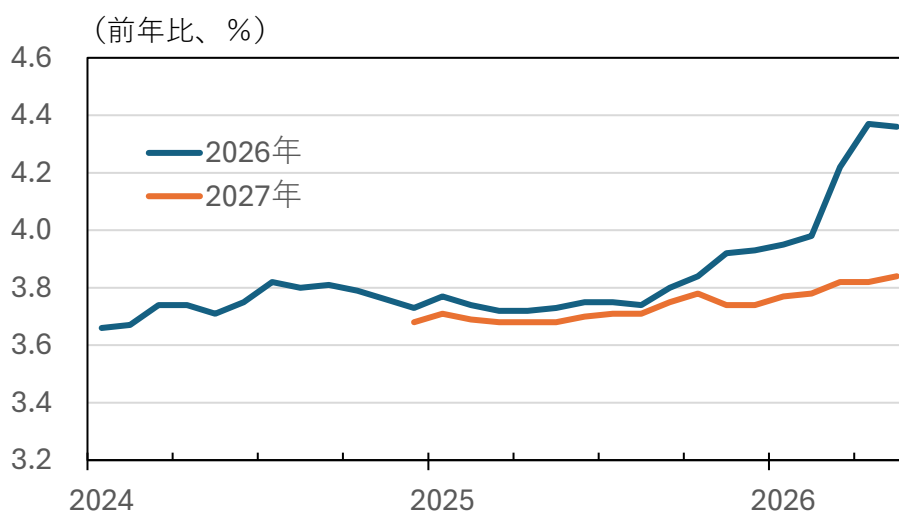
<https://www3.bcb.gov.br/expectativas2/#/consultaSeriesEstatisticas>

<sup>7</sup> <https://www.iima.or.jp/docs/column/2026/ei2026.16.pdf>

<sup>8</sup> 脚注[4]

+4.4%であるが、エルニーニョ効果はこれに追加されることになるので、最終的には+5%台になると見込まれる。

図 3 メキシコの予想インフレ率(民間機関の平均値)



(資料) メキシコ銀行

メキシコへのエルニーニョの影響は過去のデータを見る限り比較的軽いのであるが、長期的にみれば今後は楽観できない。2024/25年のエルニーニョは、2015/16年より小規模であったにもかかわらず、水不足が深刻であったからである<sup>9</sup>。

2020年代に入り、メキシコでは水不足が深刻化している。具体的には北部農地の乾燥化、都市部の給水制限の増加が挙げられる。また、工業用水の不足が、水資源を多用する半導体工場の誘致の妨げになるという指摘もされている。

水不足が深刻化している理由は下記のように需要、供給の両面にある。

- 人口増、経済発展による水需要の増大
- 地球温暖化によるメキシコ北部の降水量の低下

この結果、地下水くみ上げが過剰となり、土壌乾燥化や地盤沈下を起こし、さらに国土の貯水能力が低下するという悪循環に陥っている。

こうした背景があるので、エルニーニョが降雨量低下に拍車をかけると、小規模でも水不足を深刻化させる構造が定着しているのである。今回のエルニーニョの影響を注意深く見守る必要がある。

以上

<sup>9</sup> <https://www.climate.gov/news-features/event-tracker/multi-year-drought-and-heat-waves-across-mexico-2024>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2026 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <https://www.iima.or.jp>